

# 環境経営レポート

活動期間 令和1年8月～令和2年7月



発行：令和2年11月10日

総合建設業  
竹花工業株式会社

# 目 次

<b>環境経営方針</b>	....	1
<b>組織の概要</b>	....	2
<b>組織図</b>	....	3
<b>再資源化(処理フロー)</b>	....	4
<b>主要な環境活動計画の内容</b>	....	5
<b>環境目標とその実績及び評価【本社】</b>	....	6
<b>環境目標とその実績及び評価【駒ヶ根支店】</b>	....	7
<b>環境目標とその実績及び評価【駒ヶ根工場】</b>	....	8
<b>主な環境活動の内容</b>	....	9
<b>環境関連法規への違反、訴訟の有無</b>	....	15
<b>次年度の環境目標・取り組み内容</b>	....	16
<b>代表者による全体の評価と見直し・指示</b>	....	17

# 環境経営方針

## 1. 環境経営理念

高い技術、誠実、迅速を常に信条として社業を通じ社会に貢献し環境保全活動に全社員で取り組みます

## 2. 経営方針

- 1) 事業継続・仕事の確保
- 2) 働き方・休み方改革
- 3) 人材育成
- 4) 労災防止・交通事故防止

## 3. 環境方針

- 1) 省資源・省エネルギーに取り組み、CO<sub>2</sub>排出量を削減する
- 2) 分別の徹底により、リサイクルの推進を図り、廃棄物を削減する
- 3) 環境に配慮した建築物・工作物等の提案を行う
- 4) CS活動により、環境経営目標を達成する
- 5) 地域社会における環境汚染の予防及び拡大防止に努める
- 6) 環境に関する法規制を遵守する
- 7) 本方針を全社員に周知し、継続的な維持改善を行い環境保全に努める

制定日 平成23年9月10日

改訂日 令和 1年9月21日

竹花工業株式会社

代表取締役 唐澤正幸

# 組 織 の 概 要

## (1) 事業所及び代表者名

竹花工業株式会社  
代表取締役 唐澤 正幸

## (2) 所在地

本社	長野県小諸市南町二丁目6番10号
小諸生コン工場	長野県小諸市甲1816-1
工事施工部	長野県小諸市甲狐穴1818-1
田中支店	長野県東御市県518番地
軽井沢営業所	長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字東屋敷浦4630-18
北軽井沢支店	群馬県吾妻郡長野原町大字応桑819-3番地
駒ヶ根支店	長野県駒ヶ根市中沢12175番地
駒ヶ根工場	長野県駒ヶ根市中沢3392番地

## (3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	建築次長	小林 秀司
担当者	経理課長	小宮山 剛
連絡先	TEL 0267 (22) 1750	FAX 0267 (23) 3969
	HP <a href="http://www.takehanakogyo.co.jp">www.takehanakogyo.co.jp</a>	E-mail <a href="mailto:inho@takehanakogyo.co.jp">inho@takehanakogyo.co.jp</a>

## (4) 事業内容

総合建設業 国土交通大臣許可（特・般）第3322号  
営業種目：建築工事、土木工事、管工事、とび・土工工事、石工事、ほ装工事、造園工事  
鋼構造物工事、しゅんせつ工事、水道施設工事、解体工事  
電気工事、大工工事、屋根工事、内装仕上工事、タイル・れんが・ブロック工事  
生コン等の製造販売、住宅販売、コンクリート補修、砂利・砂・碎石の採取販売  
産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物中間処理(破碎)

一級建築士事務所 長野県知事登録（佐久）J第36095号  
宅地建物取引業許可 長野県知事 (13)第1471号  
産業廃棄物収集運搬業許可 長野県知事 2000029517  
許可年月日 令和2年4月25日 有効年月日 令和7年4月24日

## (5) 産業廃棄物処理施設等の状況

産業廃棄物処分業許可 長野県知事 2020029517  
許可年月日 令和2年4月25日 有効年月日 令和7年4月24日  
【中間処理施設所在地】 長野県駒ヶ根市中沢3242、3243  
がれき類の破碎施設 固定式:RC-30 固定式:SAP-4K 処理能力(720t/日)  
がれき類の破碎施設 固定式 処理能力(624t/日)  
アスコン廃材 8,308.25t 二次製品廃材 1,396.05t  
コンクリート廃材(無筋) 5,740.67t コンクリート廃材(有筋) 2,182.39t

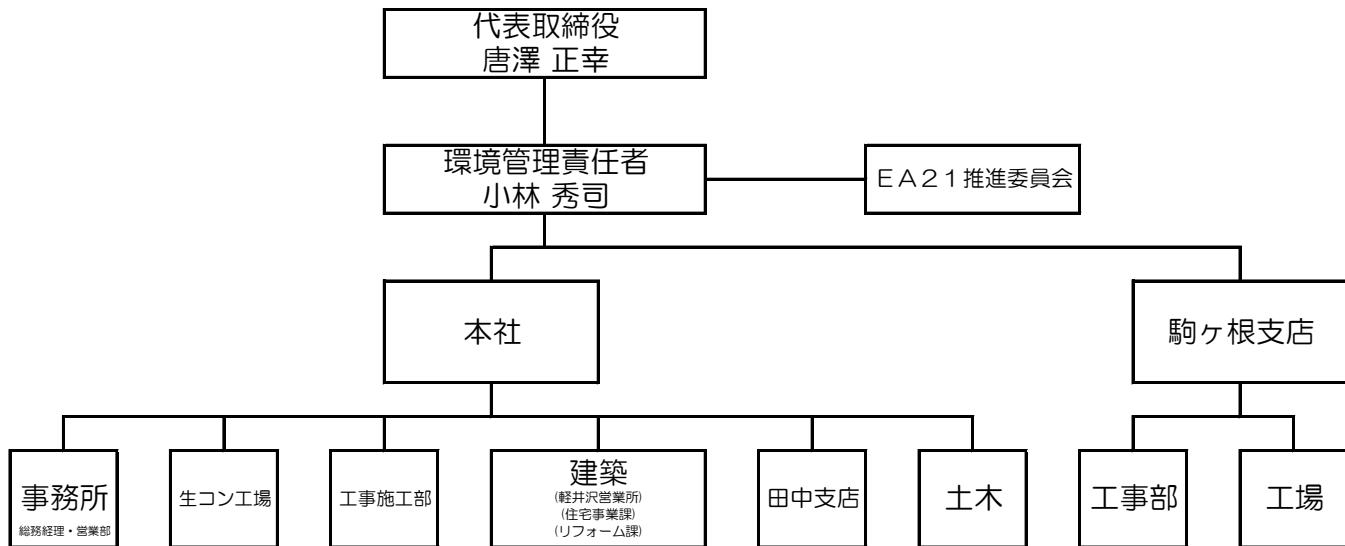
## (6) 産業廃棄物収集運搬の状況

収集運搬実績 業としての実績 0 t 自社収集運搬実績 1,047 t

## (7) 事業の規模

設立年月日	昭和38年1月30日
資本金	9,600万円（授権資本1億5,600万円）
売上高	48億6,262万円（第58期 R1.8.1～R2.7.31）
従業員数	143名
本社建物	鉄骨造陸屋根5階建て 延べ床面積 1,916.98m <sup>2</sup>

# 令和1年度 環境経営システム組織図

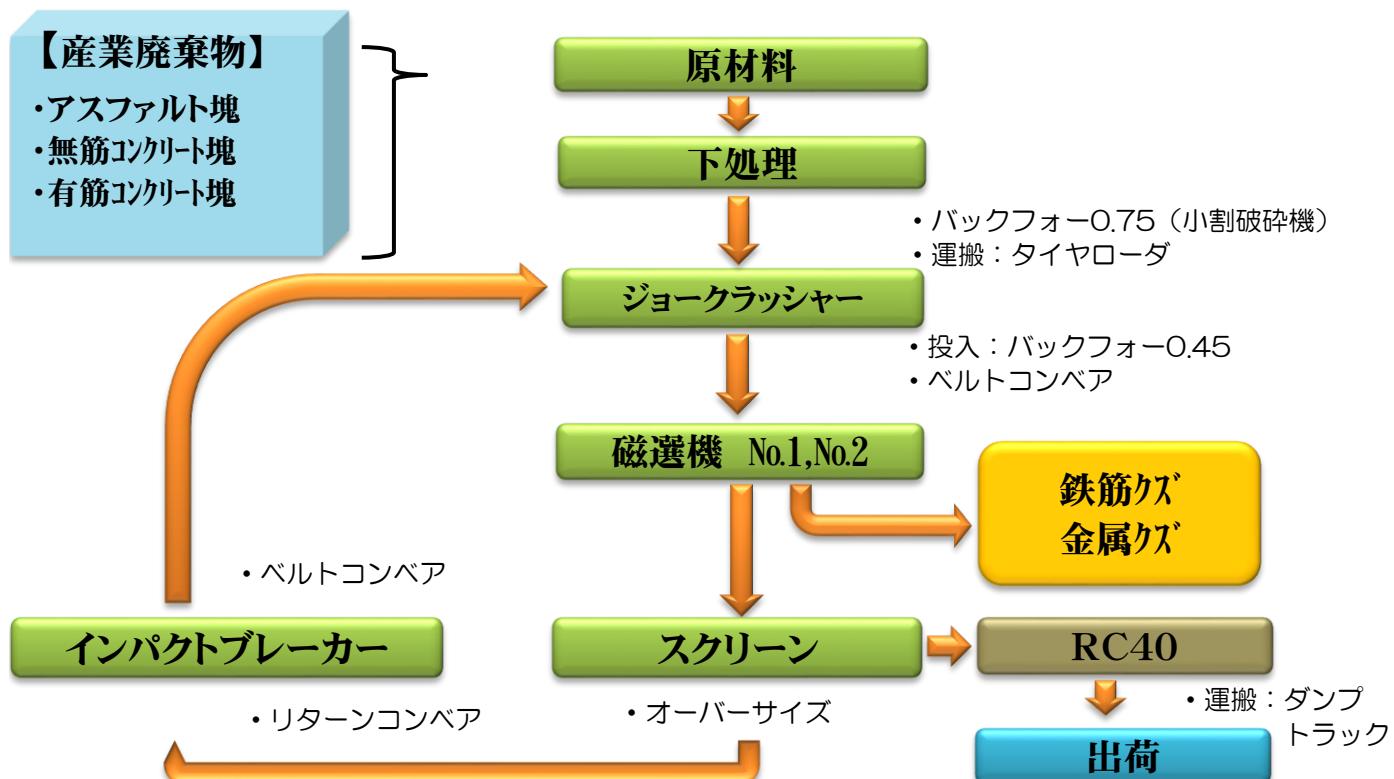


環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任。</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。</li> <li>・環境管理責任者を任命。</li> <li>・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を承認。</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施。</li> <li>・環境活動レポートの承認。</li> </ul>
環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理。</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ票を承認。</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。</li> <li>・環境目標・環境活動計画書を確認。</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告。</li> <li>・環境活動レポートの確認。</li> </ul>
EA 21 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐。</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。</li> <li>・環境目標、環境活動計画書原案の作成。</li> <li>・環境活動の実績集計。</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成。</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。</li> <li>・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営システムの実施。</li> <li>・自部門における環境方針の周知。</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施。</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。</li> <li>・特定された項目の手順書作成及び運用管理。</li> <li>・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成テスト、訓練を実施記録の作成。</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。</li> </ul>

※ 下請負人に於いては、対象外とする。

# がれき類の破碎施設作業フロー図



## がれき類の破碎施設作業要領書

### 下処理

- ①アスファルト塊は、『25cm』以下になるように処理する。
- ②下処理後、材料置き場には、アスファルト塊とコンクリート塊が『50：50』の比率になるように、タイヤローダで交互に運搬して集積する。
- ③コンクリート塊は、ある程度大きくても良い。

### ジョークラッシャー

- ①材料投入は、材料の流れ具合を見ながらゆっくり行う。
- ②アスファルト塊とコンクリート塊が『50：50』の比率になるように混ぜて投入する。
- ③鉄筋や木材など異物を見つけたらすぐに除去する。
- ④二次製品を処理する時は、材料を少なめに投入する。
- ⑤雨天などで材料が濡れている時は、『大きめのコンクリート塊』を中心に投入する。

### 磁選機 No.1, No.2

- ①鉄筋など異物の除去具合を確認する。

### スクリーン

- ①網の状態を確認し、鉄筋や異物が引っ掛かっている場合は除去する。
- ②時々、網の下のドロ等を清掃する。

### インパクトブレーカー

#### 【処理料金】

形状、数量等により異なりますので、弊社工場 (TEL0265-82-5275) までお問い合わせ下さい。無料にてお見積りさせていただきます。

#### 【保有する運搬車両】

11tダンプ 4台 、 4tダンプ 1台 、 2tダンプ 2台

# 令和1年度 主要な環境活動計画の内容

## 二酸化炭素の削減

【電力の削減】 削減率 -0.5%

- ・昼食時及び不使用部屋消灯
- ・OA機器の不使用時には電源をOFFにする
- ・残業時間、夜間照明を必要最小限にする

【灯油の削減】 削減率 -0%

- ・長時間不在時は暖房をとめる

【重油の削減】 削減率 -0.5%

- ・生コン工場に於いて、水槽の温度をこまめに確認し、加熱器のスイッチを管理する
- ・日中はボイラーパークを止める

【都市ガスの削減】 削減率 -0%

- ・不在箇所のエアコン電源OFF

【液化石油ガスの削減】 削減率 -0%

- ・沸騰時にすぐ消火
- ・音の鳴るやかん使用

【ガソリン・軽油の削減(自動車、建設機械等の燃料)】 削減率 -0.5%

- ・エコドライブ・アイドリングストップを実施する
- ・車両の整備、走行距離の定期的チェックを実施する
- ・積載オーバーをしない
- ・車両、機械の定期的整備を実施する
- ・各現場へ乗り合わせて移動する。

## 廃棄物

【一般廃棄物・建設廃棄物の削減】 削減率 -0.5%

- ・不要原紙の再利用（両面コピー、裏紙利用）
- ・分別収集によるリサイクル化の実施

【リサイクル率の向上】 削減率 +0.1%

## 水

【水道水の削減・井戸水の削減】 削減率 -0.1%

- ・水道水を出しすぎない
- ・井戸水の使用量把握を行い削減につなげる

## 化学物質

【化学物質使用量の削減】 削減率 -0.1%

- ・原材料に含まれる化学物質の含有量を把握する

## 製品

【製品への環境配慮】

- ・環境に配慮した製品を生産又は販売する

※ 基準年【平成30年度】からの削減率を記載

# 令和1年度 環境目標と実績及び評価 【本社】

項目	基準値	令和1年度実績値				中長期目標値	
		削減目標値	令和1年度 R1.8~R2.7	評価	令和2年度	令和3年	
二酸化炭素排出量	電力	購入電力 kwh	201,508	▲0.5%	200,500	200,444	○
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	91,082	▲0.5%	90,626	90,601	
	灯油	使用量 L	9,592	▲0%	9,592	4,786	○
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	23,903	▲0%	23,903	11,926	
	重油	使用量 L	4,306	▲0.5%	4,284	2,010	○
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	11,668	▲0.5%	11,609	5,446	
	都市ガス	使用量 Nm <sup>3</sup>	5,347	▲0%	5,347	5,287	○
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	11,953	▲0%	11,953	11,819	
	LPGガス	使用量 Nm <sup>3</sup>	226	▲0%	226	104	○
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	679	▲0%	679	312	
	ガソリン	使用量 L	59,166	▲0.5%	58,870	64,180	×
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	137,363	▲0.5%	136,677	149,004	
	軽油	使用量 L	246,874	▲0.5%	245,640	148,647	○
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	638,470	▲0.5%	635,278	384,434	
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	915,118	▲0.5%	910,725	653,543	○	906,330 901,939
建設一般廃棄物	排出量	t	6,221	▲0.5%	6,190	10,367	×
	再資源化量	t	3,882	○	3,867	1,760	—
	リサイクル化率	%	62.4	+0.1%	62.46	17	×
水道水排水量	m <sup>3</sup>	19,397	▲0.1%	19,378	23,391	×	19,358 19,339
化学物質使用量	kg	2,060	▲0.1%	2,058	2,800	×	2,056 2,054

※電気使用量によるCO<sub>2</sub>調整後排出係数は、中部電力(株) 2018年実績 0.452kg/kwhとする

## 評 価

今期は、建築の大型物件が終了し生コンの出荷量も減ったため、電力の使用量等減少した為、CO<sub>2</sub>の排出量については目標を達成できた。

しかし、台風19号関連の災害復旧工事が本格的に始まっており、今後のCO<sub>2</sub>排出量の増加が見込まれる。

# 令和1年度 環境目標と実績及び評価 【駒ヶ根支店】

項目			基準値 平成30年度 H30.8~R1.7	令和1年度実績値			中長期目標値			
				削減目標値	令和1年度 R1.8~R2.7	評価	令和2年度	令和3年		
二酸化炭素排出量	電力	購入電力 kwh	29,324	▲0.5%	29,177	27,080	○	29,031 28,885		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	13,254	▲0.5%	13,188	12,240		13,122 13,056		
	灯油	使用量 L	1,736	▲0%	1,736	1,636	○	1,736 1,736		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	4,326	▲0%	4,326	4,077		4,326 4,326		
	重油	使用量 L	10	▲0.5%	10	60	×	10 10		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	27	▲0.5%	27	163		27 27		
	都市ガス	使用量 Nm <sup>3</sup>	0	▲0%	0	0	—	0 0		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	0	▲0%	0	0		0 0		
	LPGガス	使用量 Nm <sup>3</sup>	108	▲0%	108	192	×	108 108		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	324	▲0%	324	577		324 324		
	ガソリン	使用量 L	14,781	▲0.5%	14,707	14,169	○	14,633 14,559		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	34,316	▲0.5%	34,145	32,895		33,973 33,801		
	軽油	使用量 L	29,596	▲0.5%	29,448	8,785	○	29,300 29,152		
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	76,542	▲0.5%	76,159	22,721		75,776 75,393		
二酸化炭素総排出量		kg-CO <sub>2</sub>	128,790	▲0.5%	128,169	72,672	○	127,548 126,928		
建設一般廃棄物	排出量		t	25.96	▲0.5%	25.83	31.78	×		
	再資源化量		t	11.70	○	11.70	31.75	—		
	リサイクル率		%	45.07	+0.1%	45.12	99.89	○		
水道水排水量			m <sup>3</sup>	1,163	▲0.1%	1,162	1,306	×		
化学物質使用量			kg	0	▲0.1%	0	0	—		

※電気使用量によるCO<sub>2</sub>調整後排出係数は、中部電力(株) 2018年実績 0.452kg/kwhとする

## 評 価

二酸化炭素排出量が大幅減の結果である。軽油使用量の減が起因していると思われる。仕事の内容、工事受注量、車・重機などの使用量により変化する可能性がある。  
今後の仕事内容・工種などを注視しながら実績値が継続できるよう取組んでいく。

# 令和1年度 環境目標と実績及び評価 【駒ヶ根工場】

項目			基準値 平成30年度 H30.8~R1.7	令和1年度実績値			中長期目標値	
				削減目標値	令和1年度 R1.8~R2.7	評価	令和2年度	令和3年
二酸化炭素排出量	電力	購入電力 kwh	791,795	▲0.5%	787,836	821,713	X	783,877
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	357,891	▲0.5%	356,102	371,414		779,918
	灯油	使用量 L	15,805	▲0%	15,805	13,957	○	15,805
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	39,385	▲0%	39,385	34,780		15,805
	重油	使用量 L	8,000	▲0.5%	7,960	6,000	○	7,880
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	21,677	▲0.5%	21,569	16,258		21,352
	都市ガス	使用量 Nm3	0	▲0%	0	0	-	0
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	0	▲0%	0	0		0
	LPGガス	使用量 Nm3	234	▲0%	234	199	○	234
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	702	▲0%	702	597		234
	ガソリン	使用量 L	5,264	▲0.5%	5,238	4,808	○	5,185
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	12,221	▲0.5%	12,160	11,163		12,038
	軽油	使用量 L	289,880	▲0.5%	288,431	232,139	○	285,532
		排出量 kg-CO <sub>2</sub>	749,693	▲0.5%	745,945	600,363		738,449
二酸化炭素総排出量			kg-CO <sub>2</sub> 1,216,408	▲0.5%	1,175,863	1,034,574	○	1,170,154
建設一般廃棄物	排出量 t	t	0	▲0.5%	0	0	-	0
	再資源化量 t	t	0	0	0	0	-	0
	リサイクル率 %	%	0	+0.1%	0	0	-	0
水道水排水量			m <sup>3</sup> 432	▲0.1%	432	471	X	431
化学物質使用量			kg 0	▲0.1%	0	0	-	0

※電気使用量によるCO<sub>2</sub>調整後排出係数は、中部電力(株) 2018年実績 0.452kg/kwhとする

## 評 価

水道水は砂利、再生、生コン製品を作るために直接は使用していない。12,1,2,3月はボイラーで使用するため、冬場の使用量は少なくできないが、合計使用量が今年度は過去4年で2番目に多かった。原因はボイラー以外と思われるため微量ではあるが他の生活水を今後節水するように気を付けたい。今年度は工場製品の出荷が全体的に少なく電力は増加したが軽油及びガソリンの使用量が減少したため二酸化炭素の排出量としては目標をクリアしている。

# 令和1年度 主な環境活動の内容【本社】

## 長野県SDGs推進企業に登録しました。



当社は、長野県SDGs推進企業として登録しました。

【持続可能な開発目標】国連で定めた17個の目標とともに「誰一人取り残さない」を理念に、世界をよりよく変えて行くための活動です。出来ることから始めて行きましょう。

### 当社の主な目標

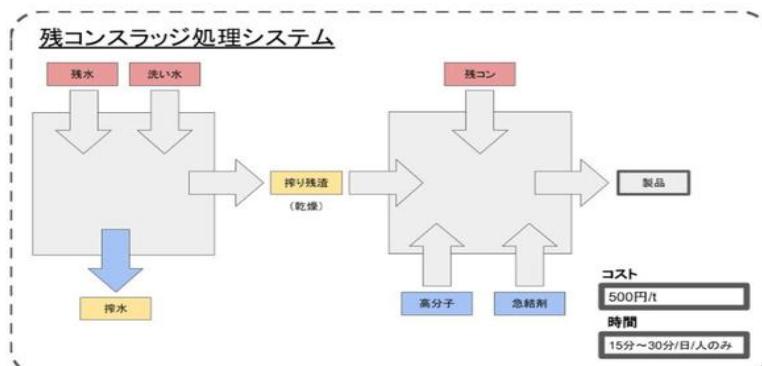
- ① CO2の排出量削減
  - ② 残業時間の削減
  - ③ 労災事故の撲滅
- など

## 【生コン工場】 IWAリサイクルシステムによる 廃棄物ゼロの実現に向けて取り組んでいます。

生コン工場では、セメントを含んだ残渣が毎日発生します。残渣から砂利、砂を分離し最終的に残ったものをセメントスラッジと言い管理型の最終処分で処分されています。

IWAリサイクルシステムを構築し、廃棄物ゼロの実現を目指します。

IWAシステムとは、Improved=改善、Water=水、Absorption=吸収の頭文字をとったもので、簡易的な設備で残渣の水分を取り除いたのち、薬剤を添加して、再生骨材を製造するシステムです。（概略は、下図による）



### ●水槽、乾燥槽、混合槽

既存水槽を改造し転用すること、水槽の新設を先行することで、現在と同じ形で使用しながら、洗車場の改造を進めた。

No.①～③については、スリットピットに改造を予定。

No.④は上澄水槽、スリットピットの改造中は①の代用として使用する。

No.⑤は天日干しのための乾燥槽。

従来の処理方法の場合、1m<sup>3</sup>当たりの処理費用は¥3227、IWA再生骨材を作るために必要な薬剤の費用は¥1,600、結果、¥1627のコスト削減ができ、再生骨材が手元に残る。

IWA骨材は、再生骨材としての販売、再生生コンとしての販売、もしくはブロックの製造に利用することを想定、それによる経費の削減にもつながる。

# 令和1年度 主な環境活動の内容 【本社】

## 【緊急事態への準備と対応】

開催日 令和1年8月30日 午後1時30分～午後2時30分

場所 本社1階、2階、3階、北側駐車場

訓練内容 ① 通報訓練 ② 避難訓練 ③ 消火訓練 ④ 汚泥・オイル流出防止

① 通報訓練



② 避難訓練



③ 消火訓練



③ 消火訓練



④ 汚泥・オイル流出防止



## 【土木部】 環境美化活動

開催日 令和2年4月16日 午後2時～午後3時

場所 (一)旧軽井沢軽井沢(停)線 無電柱・電線共同溝 現場

内容 地域貢献の一環として、現場周辺の清掃活動を実施しました。



# 令和1年度 主な環境活動の内容 【駒ヶ根工事部】

## 【環境美化運動】 チームけへんサークルメンバーにて

第1回 令和1年12月3日 AM7:45～AM9:00  
場所 駒ヶ根市下市場～駒ヶ根市経塚(国)153号 伊那バイパス周辺



第2回 令和1年12月13日 AM7:45～AM9:00  
場所 駒ヶ根市下の坊中割経塚線から(国)153号線 市道付近



第3回 令和2年1月18日 AM7:45～AM9:00  
場所 駒ヶ根市赤穂北割 グループホーム辺り～市道Ⅲ-5大手女体線



第4回 令和2年3月3日 AM7:45～AM9:00  
場所 駒ヶ根市梨の木 町二区原田造成地辺り～



第5回 令和2年4月9日 AM7:45～AM9:00  
場所 駒ヶ根市下平 田沢坂～歩道橋付近



# 令和1年度 主な環境活動の内容 【駒ヶ根工事部】

## 【環境美化活動】花苗（マリーゴールド）植え付け

第1回 令和2年6月15日 AM7:45～AM9:30

場所 会社前花壇、天竜大橋欄干東側～駒ヶ根支店進入路両側



## 【粉じん作業特別教育】

開催日 令和1年9月14日 AM7:30～PM12:00

場所 駒ヶ根支店 工事部2階大会議室



# 令和1年度 主な環境活動の内容 【駒ヶ根工場】

## 【緊急事態対応訓練】

### ①消火訓練

開催日 令和2年7月10日

場所 駒ヶ根支店 生コン工場

内容 水消火器を用いて消火器の取扱い方法及び消火方法について確認を行った。



### ②消火器設置場所の確認

開催日 令和2年7月10日

場所 駒ヶ根支店 生コン工場

内容 消火器の設置場所の確認を行った



生コン工場内に20本の消火器が設置されている。  
設置場所を確認するため消火器に番号を貼り訓練参加者に探してもらうという訓練を行った。

### ③油漏れ時の対応確認

開催日 令和2年7月10日

場所 駒ヶ根支店 生コン工場

ボイラー室の重油が漏れたという設定の下、給油マットの設置場所の確認及び対応方法について確認を行った。



結束バンドはオイルが漏れた場所を留めるように応急処置用に入れおく

## 令和1年度 主な環境活動の内容 【駒ヶ根工場】

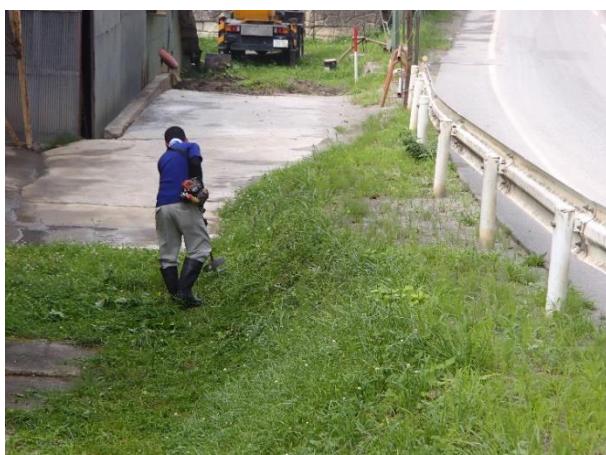
### 【平成27年度燃費基準5%達成車導入】



### 【環境美化運動】

開催日 令和2年6月30日

場所 竜東線沿いの土手の草刈り



# 令和1年度 環境関連法令等一覧表

## 主な法規制

法規・法令等名称	適用内容・遵守事項	遵守状況
1.廃棄物処理及び清掃に関する法律 (廃掃法)	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	遵守
2.騒音規制法	特定建設作業（杭打ち機、削岩機等）の実施届出	遵守
3.振動規制法	特定建設作業（杭打ち機、ブレーカー等）の実施届出	遵守
4.大気汚染防止法	解体・改修工事に伴う特定粉じん等排出作業の届出	遵守
5.建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	新築工事及び解体工事の実施の届出	遵守
6.労働安全衛生法	解体・改修工事に伴う石綿等の除去作業の届出	遵守
7.建築基準法	内装工事、空調工事に伴う使用禁止建材の規制等	遵守
8.建設工事公衆災害防止対策要綱	工事全般、解体工事に伴う付近住居者等への周知、塵芥・騒音防止の措置	遵守
9.フロン排出抑制法	解体前に設置有無確認 業務用エアコンの定期点検・簡易点検の実施と記録	遵守
10.消防法	危険物保管の指定数量以上の許可申請・届出	遵守
11.廃PCB処理法	保管・処理の状況の届出	遵守
12.水質汚濁防止法	工事用排水、工場排水に伴う規制等 中和装置の設置届・特定施設設置届	遵守
13.浄化槽法	設置、廃止等の届出 法定点検及び、保守の実施等	遵守

- 当社は小林管理者が中心となり法規の遵守状況について問題が無いことを確認しました。
- 又、過去3年間、違反、訴訟等の無い事を確認致しました。

# 次年度 環境目標・取り組み

令和2年度【令和2年8月～令和3年7月】

基準年【平成30年度】からの削減目標	取 組 み	取組重点部門	
二酸化炭素の削減	電力の削減 -1%	1.昼食時及び不使用部屋消灯 2.OA機器の不使用時には電源をOFFにする 3.残業時間、夜間照明を必要最小限にする	各事業所
	灯油の削減	1.長時間不在時は暖房をとめる	各事業所
	重油の削減 -1%	1.生コン工場に於いて、水槽の温度をこまめに確認し、加熱器のスイッチを管理する 2.日中はボイラーを止める	生コン事業部
	都市ガスの削減	1.不在箇所のエアコン電源OFF	各事業所
	液化石油ガス（LPG）の削減	1.沸騰時にすぐ消火 2.音の鳴るやかん使用	各事業所
	ガソリンの削減 -1%	1.エコドライブ・アイドリングストップを実施する。 2.車両の整備・走行距離の定期的チェックを実施する 3.各現場へ乗り合わせて移動する。	各事業所
	軽油の削減 -1%	1.エコドライブ・アイドリングストップを実施する 2.積載オーバーをしない 3.車両・機械の定期的整備を実施する	車両資材部 生コン事業部
廃棄物	一般廃棄物 建設廃棄物の削減 -1%	1.不要原紙の再利用（両面コピー、裏紙利用） 2.分別収集によるリサイクル化の実施	各事業所
	リサイクル率の向上 +0.2%		各現場
水使用料の削減 -0.2%		1.水道水を出しすぎない 2.井戸水の使用量把握を行い削減につなげる	生コン事業部 各事業所
化学物質使用量の削減 -0.2%		1.原材料に含まれる化学物質の含有量を把握する	生コン事業部 各現場
製品への環境配慮		1.環境に配慮した製品を生産又は販売する	生コン事業部 各事業所

# 代表者による全体の評価と見直し・指示

全国で相次いだ災害を受け地域の「守り手」としての建設業への期待と共に働き方改革の促進や生産性の向上等、建設業の新たな課題に対応する社会的な土台が整い、建設業が魅力ある新3K（給与・休暇・希望）の職場になるよう変化が求められている。

令和元年度の政府予算では、公共事業関係費が国全体で前年度を大幅に上回る6兆9099億円（前年度比15.6%増）が確保されるとともに、「防災・減災・国土強靭化のための3か年緊急対策」の関連事業費が1兆3475億円盛り込まれた。

県の令和元年度一般関係当初予算は、前年度比4.7%の増となる8,859億7,300万円余であり、公共事業費（補助・県単独・直轄）は、国の3か年緊急対策の活用もあり、1,307億円と前年度比29.4%の大幅な増となっています。

予算確保が厳しい中、長野県では公共事業予算、社会资本整備予算の確保など多くの予算を頂いていますが、事業量の地域間格差や企業間格差が一層拡大化している。県下の建設業界は、長年にわたる公共投資関係費の削減と、低価格受注等により多くの企業は依然として厳しい経営環境が続いているなかで、各社は将来に備えた対策が求められています。

しかしながら今回の参議院選の結果から、長野県において3か年緊急対策後の公共事業費予算の確保は厳しいものが予想されるとの声も上がっている。

県建設業協会は、入札制度の改善を重要課題として対応しており、今年の8月の公示案件より建設工事における最低制限価格の見直しがされ、2%の引き上げがされました。実態としてどのような変化となるか、市町村の工事にどのように影響されていくのか推移を見守りたい。

公共工事は当社にとっても大きな売り上げを占めるが、少ない仕事の中で、最低制限価格をあてる競争が解消されるわけではなく、官庁工事主体では建設会社として経営の予定を組めないのが現状となっている。明日の建設業を考えると、各工事現場は高齢者の比率は高く若者は少ない。この現状に対応するには、明日の業界の担い手である若い入職者をどのように確保するかが各社の課題となる。現在の他産業との人材獲得競争の中で、魅力ある業種としてのアピールをするためには、働き方に対して真剣に対応しないと我々の未来は開けてこない。

現在発注者を巻き込んだ、働き方の根本から見直しの模索が始まっている。

## 竹花工業の現状

前期は、例年より件数金額ともに多かった。本社における軽井沢プロジェクト・野岸小学校など建築を中心として大型工事の完成があり、多くの方の努力により内容についても問題は少なかった。またJV工事も工事高を上げる結果となった。懸案であった森山の最終処分場返却に向けた工事など様々な対策もできた。

今期も民間建築を中心として仕事の要望が多いが、受注や施工の上で、各部門間の協力が今まで以上に必要となってくる。今後も代理人の不足と職人の高齢化への対応が、重要課題となる。

本社サイドの民間工事のトラブルも早期に処理をしたい。工事の受注、施工時に十分な注意を払うことなど、今回の反省を生かしていくたい。

今後も気付きを増やし多くのQCの共有により同じミスを繰り返さないようにしていきたい。

近隣各社では工事量の多い少ないがあり、さらに勝ち組と負け組の区別がついている。勝ち組として残るためにには、官庁・民間を問わず発注者からの業者選択に対応していくなければならない。当社も仕事や営業内容のやり方を変化させ、各分野における開拓が必要。

当社が地域のトップ企業として得られる仕事も多く、また期待も大きい。

生き残るために、やるべきことは多い。

会社を取り巻く環境は常に変化していくが、事業の目的は「社員とその家族の幸せを追求し実現することであり、あわせて外注先や仕事に関連する人たちを守ることによって、企業の継続の意味があると考える。

見直し項目	変更の必要性	有の場合の指示事項等
1. 環境経営方針	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
2. 環境経営目標・計画	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
3. 実施体制	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	令和2年8月環境管理責任者を交代した。 各部門への指示事項の徹底を再度確認すること。
4. その他	有・ <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	

竹花工業株式会社  
代表取締役 唐澤 正幸